

表紙によせて

レンゲツツジ (*Rhododendron molle* subsp. *japonicum*)

北海道から九州まで広く分布するツツジ科ツツジ属の小低木で、分類学上は中国原産のトウレンゲツツジの亜種として扱われている。高さは 1m から 2m、落葉性の低木で、初夏に花径 5、6 cm のオレンジ色の花を咲かせる。花は枝の先端に 2 から 8 個まとまって咲き、その蕾の様子がハスの花に似ていることからレンゲツツジの名が付けられた。花色はオレンジの他に黄色のものもあり、キレンゲツツジと呼ばれる。日当たりの良い環境を好み、草原、牧草地、疎林内の開けたスポットなどで見ることができる。

このレンゲツツジは恵泉の蓼科ガーデン周辺にも多数自生しているが、この花が咲く 6 月中旬は、カラマツ林の林床ではベニバナイチヤクソウが、そして林間の少し開けたスポットではスズランが美しい花を咲かせ、キビタキやクロツグミなどの野鳥も美しい囀りを響き渡らせ、一年の中でも最も華やく季節となる。

そんな初夏の高原の主演といっても過言ではない美しいレンゲツツジであるが、実はグラヤノトキシンやロドジャポニンという有毒成分を含み、ウシやウマも食べないことからベコツツジなどと呼ばれることがある。ツツジといえば花の蜜を吸って遊んだ経験のある方も少なくないと思うが、このレンゲツツジの花の蜜は吸ってはいけぬ。

樋口幸男